

# 看護系大学生のヘルスリテラシーと子宮頸がんの知識、 子宮頸がん検診の関心および受診との関係

垣田 智恵<sup>1</sup>, 渡邊 真綾<sup>2</sup>, 大塚 美樹<sup>3</sup>

## 概 要

本研究の目的は20歳以上の看護系大学生のヘルスリテラシーと子宮頸がんの知識、子宮頸がん検診の関心および受診との関係を明らかにすることである。A大学の女子看護大学生135名を対象に無記名自記式質問紙調査を実施した。記述統計を算出し、性成熟期女性のヘルスリテラシーと子宮頸がん検診の関心、子宮頸がんに関する知識はSpearmanの相関係数にて分析した。性成熟期女性のヘルスリテラシーと子宮頸がん検診の有無はMann-Whitney検定にて分析した。回収数133部（回答率98.5%）、有効回答数120部（有効回答率90.2%）であった。性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の下位尺度である女性の体に関する知識は、子宮頸がんの知識（ $\rho = .221, p = .015$ ）と有意な弱い正の相関を認めた。性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度合計、下位尺度である女性の健康情報の選択と実践、月経セルフケア、女性の体に関する知識、パートナーとの性相談は、子宮頸がん検診の関心（ $\rho = .334, p < .001$ ； $\rho = .359, p < .001$ ； $\rho = .249, p = .006$ ； $\rho = .248, p = .006$ ； $\rho = .235, p = .010$ ）と有意な弱い正の相関を認めた。性成熟期女性のヘルスリテラシーと子宮頸がん検診の受診の有無は有意な関係を認めなかった。子宮頸がん検診の受診に結びつくヘルスリテラシーの向上には、支援の必要性が示唆された。

キーワード：子宮頸がん，ヘルスリテラシー，看護系大学生，予防

## I. 緒 言

女性のライフサイクルにおいて性成熟期とは、思春期を終了し更年期までの期間であり、通常18歳～20歳頃から45歳までをさす<sup>1)</sup>。性成熟期の女性のおもな身体的な健康問題として、月経障害、性感染症、生殖器疾患などの頻度が高まることが挙げられる<sup>2)</sup>。そして、生殖器悪性新生物である子宮頸がんは、ヒトパピ

ローマウイルス（HPV）感染をおもな原因とするがんであり、若年者に多く発生し、25～34歳の悪性新生物では最多である<sup>3)</sup>。我が国では、2018年は10,978人が子宮頸がんと診断され、2020年は2,887人が死亡しており、近年、患者数も死亡率も増加している<sup>4)</sup>。子宮頸がんは、早期に発見すれば比較的治療しやすく予後は良いが、進行すると治療が難しく、早期発見が極めて重要である<sup>5)</sup>。早期は無症状であることが多く<sup>6)</sup>自分では気がつきにくいので、がんの早期発見には子宮頸がん検診が大切である。しかし、子宮頸がん検診の対象は20歳以上であるが、20歳代の子宮頸がん検診受診率は、26.5%と非

<sup>1</sup> 松江赤十字病院

<sup>2</sup> 飯南町立飯南病院

<sup>3</sup> 島根県立大学

常に低い<sup>7)</sup>。さらに日本の子宮頸がん検診受診率は他の先進国と比較して低い<sup>8)</sup>。

がん検診受診率にヘルスリテラシーが関連<sup>9)</sup>し、若年女性の子宮頸がん検診受診群は未受診群に比べてヘルスリテラシーが高い<sup>11-12)</sup>。そして、若年女性の子宮頸がんリテラシーは所得、検索、学習時間、若い友人のカウンセリングと関係し、教育的介入により子宮頸がん検診受診を促進する可能性を示唆している<sup>10)</sup>。ヘルスリテラシーとは「よい健康状態を推進して維持させられるような、情報にアクセスし、理解し、利用するための個人の意欲と能力を決める認知的社会的スキル」<sup>13,14)</sup>とされている。女性が子宮頸がんに関する適切な情報を得て、必要な社会資源を活用することが重要であり、ヘルスリテラシーを向上させることにより子宮頸がんの予防および早期発見につながる。

看護学生は、自身の子宮頸がんの予防および早期発見だけではなく、将来は看護職として予防および早期発見に向けた支援の役割を担う。したがって、高度情報化社会において、看護学生のヘルスリテラシーを向上させることが重要であり、教育的支援が必要であると考え。しかし、我が国の看護学生の子宮頸がん検診に関する先行研究では、子宮頸がん検診に対する知識や認識、他者からの勧め、母親との関係などが関連すること<sup>15-17)</sup>、子宮頸がん検診の動機<sup>18)</sup>が明らかにされているが、子宮頸がんとヘルスリテラシーに関する研究は調べた限り見当たらず、看護学生のヘルスリテラシーと子宮頸がんに関する基礎的資料が不足している。そこで、本研究の目的は、20歳以上の看護系大学生のヘルスリテラシーと子宮頸がんの知識、子宮頸がん検診の関心および受診との関係を明らかにすることとした。

#### 用語の操作的定義

ヘルスリテラシーの定義は、本研究で用いた性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の開発<sup>11)</sup>で参考にされているNutbeam<sup>13)</sup>の定義とし、「よい健康状態を推進して維持させられるような、情報にアクセスし、理解し、利用するための個人の意欲と能力を決める認知的社会的スキル」<sup>14)</sup>とした。

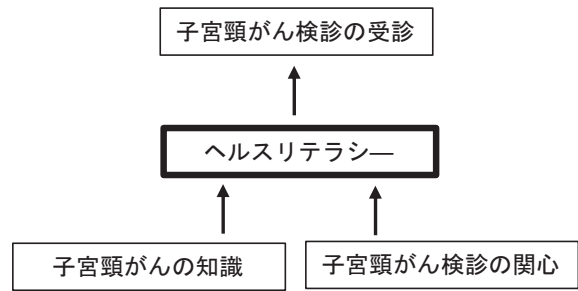


図1 本研究の枠組み

ヘルスリテラシーと各変数（子宮頸がんの知識、子宮頸がん検診の関心、子宮頸がん検診の受診）との関係を分析する。

#### 概念枠組み

概念枠組みは図1に示した。本研究では、ヘルスリテラシーと各変数（子宮頸がんの知識、子宮頸がん検診の関心、子宮頸がん検診の受診）との関係を分析する。

## Ⅱ. 研究方法

### 1. 研究デザイン

実態調査研究

### 2. 研究対象

A 大学看護学科に通う女子看護大学生3,4年生の135名。

### 3. データ収集方法

データ収集期間は2021年8月であった。研究対象者が受講する科目担当教員に対し、事前に質問紙調査を講義終了直後に実施することの了解を得た。研究対象者に研究の目的、調査方法、質問内容等を説明し、無記名自記式質問紙を配布した。回収は会場内に設置した回収箱に投函してもらうか、大学内に設置した施錠された回収箱に投函してもらった。回収の締め切りは質問紙配布後1週間とした。

### 4. 調査内容

1) 対象者の年齢

2) 子宮頸がんの知識

子宮頸がんに関する知識について、発症原因、子宮がんの種類、感染経路、罹患による障害、好発年齢、がん検診対象年齢についての知識6

項目について、「そう思う：1点」「そう思わない：0点」で回答を得た。回答得点の範囲は、0～6点である。

### 3) 子宮頸がん検診への関心の有無

子宮頸がん検診の関心について、「ある：5点」「少しある：4点」「どちらともいえない：3点」「あまりない：2点」「ない：1点」で回答を得た。

### 4) 子宮頸がん検診の受診の有無

子宮頸がん検診の受診の有無について、「ある」「ない」で回答を得た。

### 5) ヘルスリテラシー

ヘルスリテラシーは、性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度<sup>11)</sup>を用いた。この尺度は、4つの下位尺度の「女性の健康情報の選択と実践」「月経セルフケア」「女性の体に関する知識」「パートナーとの性相談」の21項目の質問で構成されている。回答は、「あてはまる：4点」「ややあてはまる：3点」「あまりあてはまらない：2点」「あてはまらない：1点」で得る。回答得点の範囲は21～84点であり、得点が高いほどヘルスリテラシーが高いことを意味する。性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の信頼性は、尺度全体のクロンバック $\alpha$ 係数が $\alpha = 0.88$ 、下位尺度のクロンバック $\alpha$ 係数が $\alpha = 0.72 \sim 0.83$ である。性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の併存妥当性は、性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度得点と日本語版健康増進ライフスタイルプロフィール尺度得点の相関係数 $r = 0.44$  ( $p < .01$ )により確認されている。

## 5. 分析方法

データはまず記述統計を算出した。次に性成熟期女性のヘルスリテラシーと子宮頸がん検診の関心、子宮頸がんに関する知識との関係はSpearmanの相関係数、性成熟期女性のヘルスリテラシーと子宮頸がん検診の有無との関係はMann-Whitney検定を行った。統計処理にはIBM SPSS Statistics ver. 25を用い、統計学的有意水準は5%未満とした。

## 6. 倫理的配慮

本研究は鳥根県立大学看護栄養学部看護学科の「学生の研究における倫理的配慮」に関する

指針に基づき、研究領域責任者の承認を受けて実施した(承認番号：2021-成01)。研究対象者には、研究の目的、方法、個人情報保護、研究への同意は自由意志に基づき同意しない場合も不利益は生じないこと、質問紙の返信により同意が得られたとみなし、質問紙の返信後は同意の撤回ができないこと、研究データの管理方法、研究結果の公表について文書と口頭で説明した。データは鍵のかかる研究室で管理し、公表後10年間は研究室内の鍵のかかる保管庫で保管し、保管期間終了後は復元不可能な形で破棄することとした。なお、研究で使用した尺度は、尺度開発者に使用の許諾を得た。

## Ⅲ. 結 果

質問紙135部を配布し、133部回収した(回答率98.5%)。そのうち、無回答項目のあるものは除外し、有効回答数は120部(有効回答率90.2%)であった。研究対象者の年齢、子宮頸がんの知識と性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の中央値、子宮頸がん検診の関心と受診の有無は表1に示す通りである。年齢の中央値は21.0歳であった。子宮頸がんに関する知識について、6点満点で得点の中央値は4.0点であり、正答率は66.7%であった。子宮頸がん検診の関心について、「ある」63名(52.5%)、「少しある」34名(28.3%)、「どちらともいえない」14名(11.7%)、「あまりない」8名(6.7%)、「ない」1名(0.8%)であった。子宮頸がん検診の受診経験は「ある」26名(21.7%)、「ない」94名(78.3%)であった。性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の合計得点の中央値は66.0、下位尺度の得点の中央値は、女性の健康情報の選択と実践は27.0、月経セルフケア16.0、女性の体に関する知識は16.0、パートナーとの性相談6.0であった。

性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の回答数と割合は表2に示す通りである。「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した者の割合が80%以上であった項目は、「女性の健康についての情報が欲しいときはそれを手に入れることができる」、「日常生活の中で見聞きする女性の



表 1 年齢, 子宮頸がんの知識と性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の中央値, 子宮頸がん検診の関心と受診の有無

		中央値 (最小値-最大値)	n	(%)
年齢		21.0 (20.0-40.0)		
子宮頸がんの知識		4.0 (1.0-6.0)		
子宮頸がん検診の関心	ある		63	52.5
	少しある		34	28.3
	どちらともいえない		14	11.7
	あまりない		8	6.7
	ない		1	0.8
子宮頸がん検診の受診	ある		26	21.7
	ない		94	78.3
		中央値 (最小値-最大値)		
性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の合計得点		66.0 (37.0-83.0)		
下位尺度1 女性の健康情報の選択と実践の得点		27.0 (15.0-36.0)		
下位尺度2 月経セルフケアの得点		16.0 (5.0-20.0)		
下位尺度3 女性の体に関する知識の得点		16.0 (10.0-20.0)		
下位尺度4 パートナーとの性相談の得点		6.0 (2.0-8.0)		

健康について情報が理解できる], 「医療従事者に相談するときは自分の症状について話すことができる], 「自分の月経周期を把握している], 「体調の変化から月経を予測することができる], 「月経時につらい症状があるときは積極的に対処法を行っている], 「月経に伴う心身の変化に気づいている], 「月経のしくみについての知識がある], 「妊娠のしくみについての知識がある], 「性感染症予防についての知識がある], 「避妊の方法についての知識がある」であった。

性成熟期女性のヘルスリテラシーと子宮頸がんの知識, 子宮頸がん検診の関心との関係は表3に示す通りである。性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の下位尺度である女性の体に関する知識は, 子宮頸がんの知識 ( $\rho=.221, p=.015$ ) と有意な弱い正の相関を認めた。性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度合計, 下位尺度である女性の健康情報の選択と実践, 月経セルフケア, 女性の体に関する知識, パートナーとの性相談は, 子宮頸がん検診の関心 ( $\rho=.334, p<.001$ ;  $\rho=.359, p<.001$ ;  $\rho=.249, p=.006$ ;  $\rho=.248, p=.006$ ;  $\rho=.235, p=.010$ ) と有意な弱い正の相関を認めた。性成熟期女性のヘルスリテラシーと子宮頸がん検診の有無との関係は表4に示す通りである。性成熟期女性のヘルスリテラシーと子宮頸がん検診の受診の有無は, 有意な関係を認めなかった。

#### Ⅳ. 考 察

本研究の対象者は20歳以上の看護系大学生3, 4年生であり, 子宮頸がんに関する知識についての正答率は66.7%であった。非医療系の女子大学生の子宮頸がんや子宮頸がん検診に関する知識は不足している<sup>19, 20)</sup>が, 医療系の方が非医療系の女子大学生より知識を得ており, 医療系の女子大学生では学年が高いほど知識がある<sup>16)</sup>。本研究では, 子宮頸がん検診の関心は, 「ある」「少しある」と回答した者は80.8%であり関心が高かった。そして, 子宮頸がん検診の受診経験が「ある」は21.7%であり, 看護系大学生の子宮頸がん検診受診率8.0%<sup>17)</sup>に比べると高かった。また, 本研究の対象者の性成熟期女性のヘルスリテラシーの合計と下位尺度の中央値は, 20~30歳代の女性労働者<sup>11)</sup>の平均値と比べて高く, ヘルスリテラシーは高かった。以上のことから, 本研究の対象者は, 比較的, 子宮頸がん検診の関心や子宮頸がんに関する知識, ヘルスリテラシーが高く, 看護系大学生では子宮頸がん検診を受診している割合が高い集団であったと考えられる。

性成熟期女性のヘルスリテラシーの合計と下位尺度すべては, 子宮頸がん検診の関心と有意な弱い正の相関を認め, 子宮頸がん検診の関心が高いほどヘルスリテラシーが高いことが示さ

表2 性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の回答数と割合

	あてはまる		ややあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない	
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)
<b>女性の健康情報の選択と実践</b>								
自分の体について心配があるときは医療従事者に相談することができる	25 (20.8)	57 (47.5)	29 (24.2)	9 (7.5)				
インターネット・雑誌などで紹介されている女性の健康についての情報が正しいか検討することができる	26 (21.7)	56 (46.7)	37 (30.8)	1 (0.8)				
自分の体調を維持するために行っていることがある	23 (19.2)	48 (40.0)	40 (33.3)	9 (7.5)				
女性の健康についての情報が欲しいときはそれを手に入れることができる	42 (35.0)	59 (49.2)	17 (14.2)	2 (1.7)				
女性の健康についてのたくさん情報から自分に合ったものを選ぶことができる	26 (21.7)	67 (55.8)	25 (20.8)	2 (1.7)				
医療従事者のアドバイスや説明にわからないことがあるときは尋ねることができる	37 (30.8)	46 (38.3)	29 (24.2)	8 (6.7)				
日常生活の中で見聞きする女性の健康について情報が理解できる	42 (35.0)	64 (53.3)	12 (10.0)	2 (1.7)				
自分の体についてのアドバイスや情報を参考に実際に行動することができる	35 (29.2)	60 (50.0)	23 (19.2)	2 (1.7)				
医療従事者に相談するときは自分の症状について話すことができる	55 (45.8)	52 (43.3)	12 (10.0)	1 (0.8)				
<b>月経セルフケア</b>								
自分の月経周期を把握している	57 (47.5)	51 (42.5)	10 (8.3)	2 (1.7)				
体調の変化から月経を予測することができる	55 (45.8)	47 (39.2)	16 (13.3)	2 (1.7)				
月経を体調のパロメーターにしている	34 (28.3)	48 (40.0)	28 (23.3)	10 (8.3)				
月経時に下痢・頭痛・腰痛があるときは積極的に対処法を行っている	51 (42.5)	48 (40.0)	16 (13.3)	5 (4.2)				
月経に伴う心身の変化に気づいている	60 (50.0)	49 (40.8)	8 (6.7)	3 (2.5)				
<b>女性の体に関する知識</b>								
月経のしくみについての知識がある	43 (35.8)	66 (55.0)	10 (8.3)	1 (0.8)				
妊娠のしくみについての知識がある	61 (50.8)	53 (44.2)	6 (5.0)	0 (0)				
子宮や卵巣の病気についての知識がある	25 (20.8)	63 (52.5)	30 (25.0)	2 (1.7)				
性感症予防についての知識がある	43 (35.8)	64 (53.3)	13 (10.8)	0 (0)				
避妊の方法についての知識がある	61 (50.8)	54 (45.0)	5 (4.2)	0 (0)				
<b>パートナーとの性相談</b>								
必要ときはパートナーと避妊について話し合うことができる	44 (36.7)	48 (40.0)	12 (10.0)	16 (13.3)				
パートナーと性感症の予防について話し合うことができる	28 (23.3)	48 (40.0)	24 (20.0)	20 (16.7)				

表3 性成熟期女性のヘルスリテラシーと子宮頸がんの知識, 子宮頸がん検診の関心との関係  
n = 120

	性成熟期女性の ヘルスリテラシー 尺度の合計得点	p	女性の健康 情報の選択 と実践	p	月経 セルフ ケア	p	女性の体 に関する 知識	p	パート ナーとの 性相談	p
子宮頸がん の知識	.172	.061	.150	.103	.160	.081	.221	.015*	-.024	.796
子宮頸がん 検診の関心	.334	p<.001***	.359	p<.001***	.249	.006**	.248	.006**	.235	.010*
Spearman 相関係数	*p < .05 **p < .01 ***p < .001									

表4 性成熟期女性のヘルスリテラシーと子宮頸がん検診の受診との関係 n = 120

	性成熟期女性の ヘルスリテラシー 尺度の合計得点	p	女性の健康 情報の選択 と実践	p	月経 セルフ ケア	p	女性の体 に関する 知識	p	パート ナーとの 性相談	p
子宮頸がん検診の受診 ある (n = 26)	68.0	.362	28.0	.385	17.0	.594	17.0	.470	6.0	.752
ない (n = 94)	66.0		27.0		16.0		16.0		6.0	

Mann-Whitney 検定

れた。そして、性成熟期女性のヘルスリテラシーの知識に該当する「女性の体に関する知識」は、子宮頸がんの知識と有意な弱い正の相関を認めた。これらの結果から、看護系大学生のヘルスリテラシーは、子宮頸がん検診の関心と子宮頸がんに関する知識と関係することが明らかとなった。しかし、性成熟期女性のヘルスリテラシーと子宮頸がん検診受診の有無との有意な関係を認めず、子宮頸がん検診の受診行動に結びつくものではなかった。20歳～39歳の女性労働者を対象とした調査では、性成熟期女性のヘルスリテラシーと子宮頸がん検診受診の有無との有意な関係<sup>11,12)</sup>が報告されており、年齢、社会人経験、妊娠経験、出産経験などがヘルスリテラシーに影響すると考えられる。

ヘルスリテラシーのプロセスは、健康や医療に関する情報を入手し、その情報を理解し、評価により信頼できる情報を選別し、健康に結びつくような意思決定・行動(活用)することである<sup>14)</sup>。研究対象者は、性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の項目の「女性の健康についての情報が欲しいときはそれを手に入れることができる」「日常生活の中で見聞きする女性の健康について情報が理解できる」について、「あ

てはまる」「ややあてはまる」と回答した者の割合が80%以上であり、女性の健康についての情報を入手し理解している様子が伺えた。しかし、「インターネット・雑誌などで紹介されている女性の健康についての情報が正しいか検討することができる」について、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した者の割合は68.4%であった。日本人のヘルスリテラシーは、特に評価と活用において困難感を感じている<sup>21)</sup>特徴があり、我が国の看護学生においても入手した情報から正しい情報を選別し活用することに対し困難感を感じている、無自覚に不適切な情報を選別し活用している可能性がある。子宮頸がん予防においては、入手した様々な情報から医学的根拠を踏まえた正しい知識と批判的思考に基づいた判断により子宮頸がんに関する情報を選別し、子宮頸がん検診の必要性を自身のこととして捉え、受診行動に結びつくヘルスリテラシーをもつことが重要である。看護系大学生において子宮頸がん検診の受診に結びつくヘルスリテラシーの向上は、子宮頸がん検診の関心と子宮頸がんに関する知識だけで難しく、教育的支援の必要性が示唆された。

本研究の限界としては対象者が1大学の学生

であり，比較的，子宮頸がん検診の関心や子宮頸がんに関する知識，ヘルスリテラシーが高く，子宮頸がん検診を受診している割合が高い集団であった。今後は，研究対象者を増やして看護学生のヘルスリテラシーに影響する要因を明らかにし，子宮頸がん検診の受診に結びつくヘルスリテラシーの向上に必要な教育的支援の内容について検討する。

## V. 結 論

20歳以上の看護系大学生の性成熟期女性のヘルスリテラシーは，子宮頸がん検診の関心と子宮頸がんに関する知識と関係していたが，子宮頸がん検診の受診の有無とは関係がなく，子宮頸がん検診の受診行動に結びつくヘルスリテラシーではなかった。子宮頸がん検診の受診に結びつくヘルスリテラシーの向上は，子宮頸がん検診の関心と子宮頸がんに関する知識だけで難しく，教育的支援の必要性が示唆された。

## 謝 辞

研究にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

## 利益相反

本稿において開示すべき COI はない。

## 付 記

本研究は令和3年度島根県立大学看護栄養学部看護学科看護研究論文集に掲載された論文のデータを用いているが，再分析を行い新たな結果と考察について本研究で発表する。

## 文 献

- 1) 小川鼎三，懸田克躬，比企能達，他．医学大辞典．2006；東京：南江堂．
- 2) 高橋眞理，工藤美子．系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学Ⅰ．2020；東京：医学書院．
- 3) 新倉仁．がんがみえる．2022；東京：メディックメディア．
- 4) 国立研究開発法人国立がん研究センター．がん情報サービスがん種別統計情報子宮頸がん．2022.7.13．[https://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/stat/cancer/17\\_cervix\\_uteri.html#anchor1](https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/cancer/17_cervix_uteri.html#anchor1)
- 5) 国立研究開発法人国立がん研究センター．がん情報サービス子宮頸がんについて．2022.7.13．[https://ganjoho.jp/public/cancer/cervix\\_uteri/about.html](https://ganjoho.jp/public/cancer/cervix_uteri/about.html)
- 6) 神田清子．系統看護学講座別巻がん看護学．2020；東京：医学書院．
- 7) 日本医師会．知っておきたいがん検診日本のがん検診子宮頸がん検診．2022.7.13．<https://www.med.or.jp/forest/gankenshin/data/japan/>
- 8) 日本医師会．知っておきたいがん検診諸外国のがん検診データ子宮頸がん．2022.7.13．<https://www.med.or.jp/forest/gankenshin/data/foreigncountry/>
- 9) Davis TC, Williams MV, Marin E, et al. Health literacy and cancer communication. CA: A Cancer Journal for Clinicians, 2002; 52(3): 134-149.
- 10) Maryam B, Parvin S, Sayed ML, et al. Cervical cancer literacy in women of reproductive age and its related factors. Journal of Cancer Education, 2019; (1): 82-89.
- 11) 河田志帆，畑下博世，金城八津子．性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度の開発女性労働者を対象とした信頼性・妥当性の検討．日本公衆衛生雑誌，2014；4：186-196．
- 12) 河田志帆，畑下博世．若年女性労働者に対する産業保健活動の検討－20歳代女性労働者のヘルスリテラシーとライフイベントおよび子宮頸がん検診受診行動との関連－．日本公衆衛生看護学会誌，2015；4(1)：41-47．
- 13) Nutbeam D. Health promotion glossary. Health Promotion International, 1998; 13(4): 349-364.

- 14) 中山和弘. ヘルスリテラシー健康教育の新しいキーワード. 2019;東京:大修館書店.
- 15) 角南知佳, 新田玲奈, 二宮一枝. 女子看護学生の子宮頸がん検診受診に関連する要因. 岡山県立大学保健福祉学部紀要, 2019;26(1):171-175.
- 16) 今井美和, 吉田和枝, 大門真理那, 他. 子宮頸がんとその予防に関する医療系女子大学生の知識と態度の状況. 石川看護雑誌, 2021;18:1-12.
- 17) 藤田和恵佳子, 高下友那, 谷口奈都未, 他. 看護系大学生の子宮頸がん検診に関する意識調査. 母性衛生, 2022;62(4):762-770.
- 18) 赤羽由美, 和田佳子, 佐山静江, 他. 看護学生における子宮頸がん検診行動の継続にかかわる動機. 独協医科大学看護学部, 2011;5(2):23-34.
- 19) 亀崎明子, 田中満由美, 保田昌子, 他. 女子大学生の子宮頸がんに関する知識習得状況と予防行動の実態および関連要因の検討. 母性衛生, 2013;54(2):303-310.
- 20) 井上福江, 濱田維子, 田中佳代. 文系大学の女子学生における子宮頸がん検診に対する行動採択と影響要因-子宮頸がん・検診にかかわる意識調査-. 母性衛生, 2013;54(1):200-209.
- 21) Nakayama K, Osaka W, Togari T, et al. Comprehensive health literacy in Japan is lower than in Europe: a validated Japanese-language assessment of health literacy. BMC Public Health, 2015; 15(505): 1-12.



# **Relationship between health literacy and knowledge of cervical cancer, interest in and receiving of cervical cancer screening among nursing university students**

Chie KAKITA<sup>1</sup>, Maaya WATANABE<sup>2</sup>, Miki OEKI<sup>3</sup>

Key Words and Phrases : Cervical cancer,  
Health literacy,  
Nursing university students,  
Prevention

---

<sup>1</sup> Matsue Red Cross Hospital

<sup>2</sup> Iinan Hospital

<sup>3</sup> The University of Shimane